

令和2年度 事業報告

いのちを守る**赤十字**



児童を対象とした防災教育プログラムの開催（須坂市立日野小学校）

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

- 01 令和2年度 TOPICS
- 03 災害救護
- 09 国際活動
- 11 赤十字奉仕団
- 18 青少年赤十字
- 21 救急法などの講習
- 26 日赤活動資金の募集
- 38 医療事業
- 41 看護師養成
- 43 血液事業
- 45 社会福祉事業
- 47 評議員会
- 48 監査報告
- 50 資料編



赤十字の誕生

スイス人の実業家アンリー・デュナンは 1859 年、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで 4 万人の死傷者に遭遇します。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救わなければならない」との信念のもと、村人たちと協力して救護活動にあたりました。そして、この体験を『ソルフェリーノの思い出』という本にまとめ、以下の必要性を訴えました。

- ①戦場の負傷者と病人は敵味方の区別なく救護すること
- ②そのための救護団体を平時から各国に組織すること
- ③この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

この思想がヨーロッパ各国に反響を呼び、1864 年に戦争犠牲者の保護・救済のためのジュネーブ条約が調印され、国際赤十字が誕生しました。



長野県支部の誕生

明治 10(1877)年、博愛社として設立された日本赤十字社は、各県に「支部」の設置に取り組みました。長野県では明治 22(1889)年、県庁内に支部を設置後、明治 32(1899)年には、現在の地に事務所を建設し、赤十字思想の普及と事業拡大の拠点としました。

令和2年度 TOPICS



日頃、日本赤十字社長野県支部の活動に対しまして、関係者をはじめ、多くの県民の皆さまから多大なるご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、令和2年度は、国内においても新型コロナウイルス感染症は脅威をもたらし、社会活動の制約や経済活動の停滞など、様々な問題に直面した1年となりましたが、長野県支部では、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たす事業を推進してまいりました。

医療施設においては、同感染症患者の専用病床を確保するため、入院・外来診療や検査等の一部を制限するとともに、今もなお、未知のウイルスに対する治療や感染防止措置に懸命な対応を行っております。また、血液事業においても、同感染症のまん延による外出自粛や各種イベントの中止から献血バスの運行ができない等により献血者が著しく減少し、一時は血液製剤の安定的な供給が危惧される事態となりましたが、著名人や報道機関を通じた献血への協力の呼びかけ等もあり、危機的な状況を回避することができました。

新型コロナウイルス感染症は、人々の身体的な健康に加えて精神的・社会的な心の健康にも影響を及ぼしました。当支部では、人間の尊厳を守る活動の一つとして、人々の不安・偏見・差別の予防や解消を図る啓発リーフレット「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」をホームページに掲載するほか、関係機関へ配布して広く周知する活動も展開しました。県民の皆さまから、一層信頼される赤十字を目指し、感染防止に留意しながら創意工夫を重ねた今年度の活動をここに報告いたします。

地域医療を支えるために、日々奮闘



常に最良を目指した感染対策を実行

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者は、医療用微粒子対応マスク（N95 マスク）や目を保護するフェイスシールド・ゴーグル、使い捨てガウン、使い捨て手袋などの感染防護具を全身に着用します。目には見えないウイルスに細心の注意を払いながらの診療は、身体的・心理的に大きな負担となりますが、そのような状況において、地域の皆さまや企業さまからの応援メッセージや温かいご支援をいただきながら、日々奮闘しました。

より安全な献血会場の運営



献血会場の良好な衛生環境を保持

安定的に血液製剤を医療機関へ届けるためには、継続した献血への協力が不可欠となります。献血会場等においては、ウイルスの感染を予防し、安全かつ安心な献血環境を保持する観点から、献血会場への入場制限や採血者と献血者が対面する箇所にパーテーションを設置するなど、各種感染防止対策を強化しました。

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！



啓発リーフレットを活用した広報活動

日本赤十字社では、新型コロナウイルス感染症がもたらす不安・偏見・差別を防ぎ、人々の尊厳を守るための啓発リーフレット「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」(監修：諏訪赤十字病院 臨床心理士 森光玲雄)を作成し、ホームページへの公開や地区区分をはじめ、各奉仕団等に配布するなどの啓発活動にも取り組みました。

また、このリーフレットは、長野県との協働により動画化され、皆さまに広く活用されました。

1 災害救護



（倉庫へ救援物資を搬入する支部職員と長野県赤十字救護隊員）

組織力を結集し
災害に備える

災害救護活動は、日本赤十字社法及び定款に規定されている基本的業務です。また、日本赤十字社は災害対策基本法によって指定公共機関として位置付けられており、重要な役割を担っています。

長野県支部では、県内赤十字病院に「医療救護班」16班を常備し、あらゆる災害に迅速に対応できるよう救護体制を整えるとともに、令和2年度は、被災地における医療ニーズの把握や救護活動にかかる他機関等との調整を担う日赤災害医療コーディネータスタッフを3人増員し、救護体制の強化を図りました。

また、今後起こりうる大規模災害に備えて新たに備蓄倉庫を確保し、救援物資の備蓄を増強するとともに、株式会社 綿半ホームエイド様のご協力のもと、店舗に災害への備えに関するチラシやリーフレットを設置いただき、広く県民に対し、防災・減災思想の普及に努めました。

(1) 災害時緊急支援体制の強化

ア 医療救護班

災害や大事故が発生した際、直ちに被災地や事故現場へ医師・看護師等を派遣するため、県内の各赤十字病院に医療救護班を常備しています。この医療救護班は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人の計6人を基準として編成しています。

イ 日赤災害医療コーディネートチーム

被災地における医療ニーズの把握や被災状況などの情報収集、他の関係機関との連絡調整を行うため、日赤災害医療コーディネートチームを配置しています。

このチームは、災害医療コーディネーター(医師)1人、コーディネートスタッフ(看護師、事務職員等)3～4人で編成しており、令和2年度は、コーディネートスタッフを新たに3人増員し、コーディネートチーム体制の強化に努めました。

ウ 血液供給要員

迅速な血液製剤の輸送のため、県内赤十字血液センターの各所に血液供給要員を配置しています。

エ 防災ボランティア

被災者に対する応急救護・復旧等の活動を支援する防災ボランティアを組織しています。

(2) 各種訓練の実施

令和2年度は、各種訓練の実施及び派遣を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び医療提供体制の確保を図るため、見送ることとしました。

| 主催 | 訓練名 | 実施日 | 開催地 |
|------------|----------------------|--------------------|-----|
| 県 | 長野県総合防災訓練 | 令和2年10月18日 ※ 参加見送り | 東御市 |
| 支部 | 医療救護班訓練 | 6月6日 ※ 中止 | 長野市 |
| 第3 ブロック | 第3ブロック支部合同 災害救護訓練 | 11月7日 ※ 中止 | 諏訪市 |

(3) 各種研修の実施

ア 支部災害対策本部要員研修

大規模災害等の発生初期において、支部職員が迅速かつ的確に災害対策本部が設置できるよう、庁舎の設備点検や機能維持にかかる確認と対応を研修しました。

| 実施日 | 会場 | 参加延人員(人) |
|-----------------------|-------|----------|
| 令和2年9月2日 令和3年1月29日 | 長野県支部 | 30 |



支部庁舎及び設備の点検



支部災害対策本部の設営

イ 医療救護班主事研修

医療救護班において庶務的役割を担う主事を対象に、災害時における医療救護班の役割や活動内容の理解、無線や衛星携帯電話等の情報ツール及び救護資機材に関する知識・技術の向上を図るため実施しました。

| 実施日 | 会場 | 参加人員（人） |
|------------|-------|---------|
| 令和2年11月 7日 | 長野県支部 | 16 |



講義「主事の役割と情報収集・記録」



dERU（仮設診療所）の設置

ウ こころのケア研修

災害時に被災者及び救援者が受けるストレスに対し、心理社会的支援を行う“こころのケア”は、災害救護の中でも重要な活動として位置づけられています。

災害時におけるこころのケア活動の一層の充実と強化を図るため、実施を予定していましたが、被災者に対するストレスケア演習などは対面・接触型カリキュラムであり、十分な感染防止対策を講じて実施することが困難であったため、中止としました。

エ 救護員としての赤十字看護師研修

災害時に救護員としての立場と役割を理解し、的確に判断・行動ができる赤十字看護師を養成するため、県内赤十字病院の看護師を対象に「救護員としての赤十字看護師研修」を実施し、災害救護に関する最新の知識・技術の習得を図り、質の高い救護看護師の育成に努めました。

| 地 域 | 実施日 | 会 場 | 修了者数(人) |
|-----|------------------------|----------------------|---------|
| 東北信 | 令和2年10月15日、 19日～20日 | 長野県支部 | 28 |
| 中南信 | 9月25日、 10月1日～2日 | 諏訪赤十字病院 (一部web形式) | 26 |



救護所運営のグループワーク



トリアージの演習

(4) 救護資機材等の整備

今後起こり得る大規模災害に備えて、災害救護用資機材と被災者の支援、県民の安心・安全に役立てるための救援物資を整備しました。

また、台風第19号災害において、避難者へ配布した救援物資については、搬出した備蓄倉庫を中心に補充・増量するとともに、千曲市をはじめ、各関係機関のご協力と県内法人・団体のご支援のもと、千曲市内に新たな倉庫を確保し、救援物資を備蓄しました。

ア 令和2年度に整備した主な救護資機材

| 品 名 | 数 量 | 配備先 |
|-----------------|-----|------------------------------|
| モバイルパソコン (一式) | 2 | 長野県支部 |
| 救護員作業衣 | 20 | 長野県支部 |
| 災害業務用無線基地局 (一式) | 3 | 諏訪赤十字病院、安曇野赤十字病院、 飯山赤十字病院 |
| 災害業務用無線局 (一式) | 15 | 長野県支部 |

イ 令和2年度に整備した救援物資

| 品 名 | 数 量 (枚) |
|-----|---------|
| 毛布 | 850 |



緊急セット
(携帯ラジオ、懐中電灯、歯ブラシ、軍手など)



安眠セット
(マットレス、アイマスク、耳栓、空気枕など)



毛布

(5) 「防災・減災」思想の普及啓発

株式会社 綿半ホームエイド様と連携し、県内の一部店舗に災害への備えに関するチラシやリーフレットを設置し、広く県民に対し、防災・減災思想の普及に努めました。



(6) 各種イベント・スポーツ大会等における臨時救護活動の実施

県内各地の体育大会等の行事に、医師・看護師等を派遣し、救護活動を実施しました。

| 派遣年度 | 派遣延日数 (日) | 派遣救護員 (人) | | | |
|-------|--------------|-----------|------|-----|-----|
| | | 医 師 | 看護師等 | 主事等 | 合 計 |
| 令和2年度 | 49 | 0 | 50 | 0 | 50 |
| 前 年 度 | 134 | 15 | 162 | 13 | 190 |

(7) 義援金の受付

国内で発生した災害の被災者に対し、生活を支えるための義援金を受け付けました。
寄託された義援金の全額は、被災地の義援金配分委員会を通じ、被災者にお届けします。

| 名 称 | 災害発生年月 | 件数 (件) | 金額 (円) |
|---------------------------|----------|--------|------------|
| 東日本大震災義援金 | 平成23年 3月 | 124 | 1,253,117 |
| 平成 28 年熊本地震災害義援金 | 平成28年 4月 | 73 | 169,299 |
| 平成 29 年 7 月 5 日からの大雨災害義援金 | 平成29年 7月 | 42 | 55,811 |
| 平成 30 年 7 月豪雨災害義援金 | 平成30年 7月 | 53 | 101,611 |
| 令和元年 8 月豪雨災害義援金 | 令和元年 8月 | 36 | 182,239 |
| 令和元年台風第 15 号千葉県災害義援金 | 9月 | 19 | 108,615 |
| 令和元年台風第 19 号災害義援金 | 10月 | 349 | 50,216,389 |
| 令和 2 年 7 月豪雨災害義援金 | 令和 2年 7月 | 341 | 12,768,583 |
| 令和 3 年 2 月福島県沖地震災害義援金 | 令和 3年 2月 | 15 | 173,267 |
| 合 計 | | 1,052 | 65,028,931 |

(8) 見舞金品の配分

県内で発生した豪雨、地震、火事などの被災者に対し、「長野県支部災害被災者見舞規程」に基づき、見舞金及び見舞品を配分しました。

| 年 度 | 見舞金 (円) | 毛布 (枚) |
|-------|---------|--------|
| 令和2年度 | 300,000 | 120 |
| 前 年 度 | 170,000 | 104 |

2 国際活動



世界の災害・ 紛争への対応

（日赤看護師によるバングラデシュの地元助産師への保健衛生指導）

日本赤十字社は、世界 192 の国や地域に広がる国際赤十字の一員として、世界各地で発生する紛争・災害で苦しむ人々に対する緊急救援や長期的な開発協力に取り組んでいます。

また、看護師等の国際救援・開発協力要員の養成を行うとともに、現地へ派遣しています。

(1) 国際救援

ア 海外救援金の受付

| 区 分 | 件 数 (件) | 金 額 (円) |
|-----------------|---------|-----------|
| バングラデシュ南部避難民救援金 | 16 | 32,169 |
| 中東人道危機救援金 | 9 | 69,302 |
| 地域無指定の救援金 | 6 | 36,699 |
| NHK 海外たすけあい | 135 | 2,858,816 |
| 合 計 | 166 | 2,996,986 |

(2) 開発協力

ア レバノン シリア難民等水衛生管理支援事業

2011年に勃発したシリア紛争から10年、隣国レバノンでは現在でも90万人以上の難民が劣悪な環境での避難生活を余儀なくされています。難民に対して感染症のリスク軽減を図るため、手洗い指導など保健衛生の徹底を行うほか、水・衛生設備の設置などを支援しました。



水・衛生に関する啓発活動



難民居住区に設置された水タンク

イ 東アフリカ地域3カ国（ルワンダ、ブルンジ、タンザニア） 地域保健強化事業

東アフリカ地域は、自然災害、紛争やテロが頻発することに加え、保健指標の低さや貧困率の高さなど様々な課題を抱える地域です。アニメやラジオを活用するなど、保健、水・衛生、防災に関する啓発活動を実施し、3カ国における地域の保健強化を支援しました。

ウ アジア・大洋州 給水・衛生災害対応キット整備事業

近年、アジア・大洋州地域においては、洪水やサイクロンなどの自然災害が増加しており、災害時の給水・衛生活動のニーズが高まっています。災害への緊急即応体制整備の一環として、給水・衛生災害対応キットの整備を進めるとともに、現地の赤十字社スタッフやボランティアなど資機材を活用する人員の育成を支援しました。



現地住民への衛生教育



簡易手洗い設備の設置研修

3 赤十字奉仕団



(マスク作りに励む赤十字奉仕団員)

人に寄り添い
支えあう

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織です。

県内 92 の赤十字奉仕団では、赤十字思想の普及や活動資金の募集、災害救護、救急法・水上安全法・健康生活支援講習等の普及、献血推進、社会福祉活動など、地域の状況に応じた幅広い活動を展開しています。

また、奉仕団の活動に必要な知識や技術の習得を目的とする研修会等を効果的に開催するため“地域赤十字奉仕団研修推進委員”の育成に努めるほか、地域社会における防災・減災の知識や技術を普及する体験型の防災啓発プログラムにも積極的に取り組んでいます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、社会活動が大幅に制約されましたが、奉仕団の皆さんが感染防止対策を講じながら、マスクや防護用ビニールエプロンを手作りで作製し、地域の福祉施設に寄贈したり、SNS を使って感染拡大防止のための啓発に取り組むなど、各奉仕団において創意と工夫に満ちた活動を行いました。また、地域赤十字奉仕団研修推進委員が講師として県内各地で行った防災啓発プログラムの講演や体験型研修は、奉仕団員や幅広い年齢層の地域住民、学校の教職員や児童が受講しました。

(1) 地域赤十字奉仕団の活動

「赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したい」という思いを持った人々によって市町村（地区・分区）ごとに組織されている奉仕団では、地区分区と連携し、地域の災害時における炊き出しや義援金の募集、公共施設の清掃や社会福祉施設への慰問・労力奉仕、赤十字活動資金の募集、収納など幅広い奉仕活動をしています。

令和2年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

また、事故や病気の予防に必要な知識と技術を習得するため、救急法や健康生活支援講習会を積極的に受講しているほか、近年頻発している災害に備える防災啓発プログラムにも取り組んでいます。

支部が主催する会議や研修会については、県内全域から参集される皆さまの新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮して中止としましたが、本社が主催する中央委員会（47都道府県の委員長会議）については、全国をオンラインで結ぶ新しい会議形式で開催されました。

中央委員会では、コロナ禍における奉仕団活動について、事例を交えながら活発な意見交換がされました。

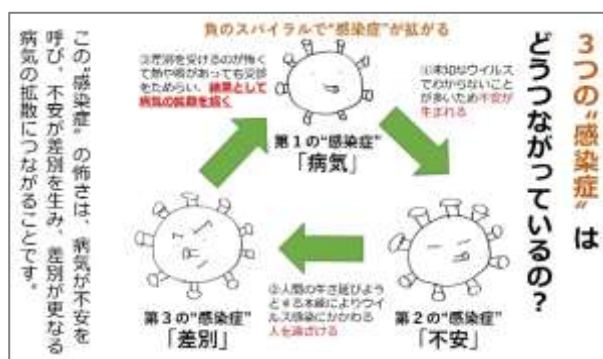


中央委員会（Web 会議）

新型コロナウイルス感染症対策を盛り込み、机上で一人でも問題意識を高められる新しい体験型の防災啓発プログラムを作製し、県内各地で研修会を開催しました。

また「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」の講演を県内各地で開催し、赤十字思想の普及にも努めました。

研修会は、県内 64 ヲ所で開催し、奉仕団員をはじめ地域の自治会役員や自主防災組織のメンバーなど 2,440 人が受講しました。



コロナ禍における体験型研修会

新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、街頭での広報活動はできませんでしたが、地域赤十字奉仕団研修推進委員が指導した防災啓発プログラム（避難所体験ゲーム）が長野放送の減災家族「ゲームで学ぶ避難所運営」（1月放映）において紹介されたほか、災害に強いまちづくりを進めている奉仕団活動が、本社発行の「赤十字ボランティア情報誌 RCV」で紹介されました。



長野放送「減災家族」



赤十字ボランティア情報誌 RCV

(2) 青年赤十字奉仕団の活動

18歳からおおむね30歳までの学生や社会人で組織されている青年赤十字奉仕団では、防災啓発活動や献血推進活動のほか、SNSを利用して同世代に向けた赤十字思想の普及活動に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、危機的状況にある医療現場の最前線に立つ全国の医療従事者へ感謝と応援の気持ちを込めたメッセージ動画「#最前線にエールを何度でも」プロジェクトに参加し、ホームページやSNSで広く配信するなど、創意と工夫に満ちた活動を展開しました。



SNSで医療従事者を応援



(3) 特殊赤十字奉仕団の活動

救急法指導員、水上安全法指導員、柔道整復師などの有資格者等で組織されている特殊赤十字奉仕団では、災害時における救護活動の支援や平時の防災訓練への参加、救急法、水上安全法の企画・運営・指導、長野県赤十字資料館や龍岡城五稜郭での案内、赤十字思想普及のための紙芝居の制作、図書の点訳など、各団で専門技術を活かした様々な活動に取り組んでいます。



歴史資料館の案内 (広報奉仕団)

<参考>

(1) 地域赤十字奉仕団活動状況

| 区 分 | 主な奉仕活動の内容 | 活動回数(回) | 活動延人員(人) |
|------------|-----------------------|---------|----------|
| 災害救護に関する奉仕 | 被災者の救護及び避難等のための独自の活動 | 39 | 439 |
| | 関係機関の救護活動への協力 | 11 | 54 |
| | 災害時の炊き出し | 11 | 106 |
| | 被災地の防疫及び復旧作業 | 1 | 12 |
| | 義援金品の募集と受付事務 | 331 | 1,331 |
| | 救援物資の整理・輸送・配分 | 27 | 232 |
| | 一品供出等による救護物資の備蓄 | 39 | 3,210 |
| | 防災訓練(炊き出し等) | 131 | 2,134 |
| | 救急法・幼児安全法・防災啓発プログラム | 75 | 1,622 |
| | プール等における臨時救護 | 9 | 123 |
| | その他 | 89 | 496 |
| | 小 計 | 763 | 9,759 |
| 保健衛生に関する奉仕 | 献血運動への協力 | 30 | 179 |
| | 不潔場所の浄化と消毒 | 203 | 1,296 |
| | 公共施設の清掃 | 636 | 6,492 |
| | 衛生思想の普及 | 9 | 526 |
| | 保健所等の関係機関による行事への協力 | 4 | 11 |
| | 巡回診療等の手伝い | 9 | 39 |
| | 健康生活支援講習の普及 | 8 | 123 |
| | その他 | 75 | 378 |
| | 小 計 | 974 | 9,044 |
| 社会福祉に関する奉仕 | にこにこ健康教室 | 3 | 30 |
| | 各種施設への慰問・労力奉仕 | 119 | 1,055 |
| | 点訳奉仕 | 12 | 48 |
| | 子供会臨時保育所等による地域の一般児童保護 | 2 | 14 |
| | 敬老会等での老人福祉 | 87 | 1,047 |
| | 要保護世帯への援助 | 116 | 249 |
| | 関係機関による各種行事への協力 | 80 | 885 |
| | 配食サービス | 16 | 288 |
| | その他 | 142 | 1,981 |
| | 小 計 | 577 | 5,597 |
| 赤十字思想普及奉仕 | 赤十字思想の普及(広報活動を含む) | 80 | 5,060 |
| | 支援者募集及び活動資金収納 | 796 | 11,030 |
| | 日赤支部地区分区の事務奉仕 | 116 | 317 |
| | 日赤主催行事への援助 | 32 | 148 |
| | 地方自治体や関係団体等による行事への協力 | 363 | 1,255 |
| | 奉仕団運営のために必要な事務奉仕 | 667 | 3,499 |
| | その他 | 96 | 1,927 |
| | 小 計 | 2,150 | 23,236 |
| 合 計 | | 4,464 | 47,636 |
| 前 年 度 | | 8,578 | 96,238 |

(2) 各奉仕団の事業実施状況

ア 地域赤十字奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|---------------------|---------------|----------|
| 赤十字奉仕団長野県支部委員会常任委員会 | 令和2年4月17日 ※中止 | 長野県支部 |
| | 8月21日 ※中止 | |
| | 令和3年2月26日 | |
| 赤十字奉仕団長野県支部委員会 | 令和2年4月17日 ※中止 | 長野県支部 |
| 地域赤十字奉仕団研修推進委員会 | 令和2年4月16日 ※中止 | 長野県支部 |
| | 6月12日 ※中止 | |
| | 8月6日 | |
| | 8月20日 | |
| | 8月24日 | |
| | 9月3日 | |
| | 令和3年3月10日 | |
| 赤十字奉仕団任委員長・担当者研修会 | 令和2年5月28日 ※中止 | 長野県支部 |
| 赤十字奉仕団中央委員会 | 12月3日 | (Web 会議) |
| 地域赤十字奉仕団幹部研修会 | 令和2年6月25日 ※中止 | 長野県支部 |
| | 6月30日 ※中止 | 佐久市 |
| | 7月1日 ※中止 | 諏訪市 |
| | 7月3日 ※中止 | 茅野市 |
| | 7月9日 ※中止 | 大町市 |
| | 7月10日 ※中止 | 飯田市 |
| 赤十字奉仕団炊き出し研修会 | 令和2年8月7日 ※中止 | 長野県支部 |
| 第3ブロック赤十字奉仕団委員長会議 | 令和2年11月16日 | (Web 会議) |

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

令和2年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

イ 青年赤十字奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|--|-----|------|
| 新型コロナウイルス感染症対策（予防啓発動画や衛生資材の作製） 防災啓発活動 献血推進活動 病院の座椅子拭き 病院の草取り、花壇の花整理 病院と学校敷地内の清掃 入院患者へのメッセージカード等の作成 | 通 年 | 県内各地 |

ウ 特殊赤十字奉仕団

（ア）救護隊

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|----------|-----------|------------|
| 救援物資搬入 | 令和2年4月15日 | 軽井沢町 |
| | 12月23日 | 松本市 大町市 |
| 救急法基礎講習会 | 11月7日 | 上田市 |
| | 11月29日 | 諏訪市 |

（イ）水上安全奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|------------|----------|-----|
| 水泳大会の監視 | 令和2年9月6日 | 長野市 |
| 検定会・記録会の補助 | 11月28日 | 長野市 |

（ウ）安全奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|--------|-----|-----|
| 救急法研修会 | 通年 | 松本市 |

（エ）大町市救急員会

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため活動を自粛

令和2年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

(オ) 松本市点訳奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|--------------------|-----|-----|
| 文芸書・児童書等の図書点訳製本作業等 | 通 年 | 松本市 |

(カ) 青少年赤十字賛助奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|--|-----------------|------|
| 長野県青少年赤十字賛助奉仕団総会 | 令和2年5月10日 ※中止 | 長野市 |
| 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会 | 令和3年3月22日 ※文書審議 | 本社 |
| 青少年赤十字指導者協議会への協力 加盟校登録式への講師派遣 賛助奉仕団報発行 | 通 年 | 県内各地 |

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

(キ) 柔道整復師会奉仕団

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため活動を自粛

(ク) 広報奉仕団

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|---|-----|-----------------|
| 歴史資料館の案内、案内ボランティア勉強会、 清掃奉仕 (長野県赤十字歴史資料館案内ボランティア班) | 通 年 | 長野県赤十字 歴史資料館 |
| 紙芝居作成・上演、絵本発刊、清掃奉仕 (飯田市赤十字奉仕団上郷分団紙芝居班) | | 飯田市 ほか |
| 五稜郭であいの館の案内、清掃奉仕 (龍岡城五稜郭保存会案内ボランティア班) | | 佐久市 ほか |

4 青少年赤十字



（「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」を用いた防災教育）

生きる力を

育む

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう日常生活の中で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標と、主体性を育むために「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げ、県教育委員会をはじめ、教職員の理解や協力を得ながら学校教育の中で展開しています。

小・中・高等学校合わせて204の加盟校においては、校内をはじめ地域の人々との関わりや心のふれあいを大切にしながら、人権問題や防災への取り組みなど幅広く活動しています。

令和2年度は、青少年赤十字指導者や青少年赤十字賛助奉仕団等と連携し、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見を防止するための人権教育や防災教材「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用した防災教育等を実施しました。



研修推進校における防災教育
（松川村立松川小学校）



コロナ対応の医療従事者へ向けて感謝の
メッセージボード作成（佐久市立田口小学校）

(1) 加盟状況

| 区 分 | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 盲・養学校 | 合 計 |
|--------------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|
| 加盟校数 (校) | 令和2年度 | 64 | 69 | 69 | 2 | 204 |
| | 前 年 度 | 64 | 69 | 68 | 2 | 203 |
| メンバー数 (人) | 令和2年度 | 19,655 | 20,537 | 1,273 | 50 | 41,515 |
| | 前 年 度 | 19,707 | 20,824 | 1,240 | 50 | 41,821 |

※ 令和2年度 新規加盟校（2校）
阿南町立新野小学校、長野県望月高等学校

(2) 研究推進校の設置

長野県教育委員会と協議し、青少年赤十字加盟校の中から小・中学校2校を研究推進校に指定しました。

| 指定年度 | 学校名 | 研究内容 |
|---------|-----------|--|
| 令和元・2年度 | 松川村立松川小学校 | 気づき、考え、行動できる児童の育成 ～「ぼうさいまちがいさがし」を取り入れた 学習活動を通して～ |
| 令和2・3年度 | 千曲市立屋代中学校 | 自己の考えを広げ深める生徒の育成 ～被災地から学ぶ～ |

(3) リーダーシップ・トレーニングセンターの開催中止

令和2年度は、青少年赤十字メンバー（児童・生徒）のリーダー養成を目的とした「リーダーシップ・トレーニングセンター」を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止としました。

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|-----------------------------|--------------------|--------|
| 小・中学校リーダーシップ・ トレーニングセンター | 令和2年8月 1日～ 3日 ※ 中止 | 松本青年の家 |
| 高等学校リーダーシップ・ トレーニングセンター | 8月 3日～ 5日 ※ 中止 | 松本青年の家 |

(4) 主な事業実施状況

| 内 容 | 実施日 | 場 所 |
|------------------------|-----------------|---------------|
| 青少年赤十字指導者協議会総会 | 令和2年5月10日 ※1 中止 | 長野県支部 |
| 全国青少年赤十字指導者協議会総会・研修会 | 9月11日 | (Web 会議) |
| 青少年赤十字研究推進校発表会 | 10月16日 ※2 縮小 | 松川村立 松川小学校 |
| 青少年赤十字指導者協議会役員会 | 10月16日 ※1 中止 | 松川村立 松川小学校 |
| 第3ブロック青少年赤十字指導者協議会長研究会 | 11月27日 | (Web 会議) |
| 青少年赤十字研究会（指導主事対象） | 令和3年1月8日 | (Web 会議) |
| 青少年赤十字指導者協議会研修会 | 2月13日 ※1 中止 | 長野県支部 |

※1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

※2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため規模を縮小して実施



県高等学校教職員初任者研修会における防災教育プログラム

5 救急法などの講習



今、あなたに
できることがある

(感染防止対策を講じた救急法基礎講習会)

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、応急手当、事故防止や健やかな生活を送るために役立つ知識・技術と赤十字思想を普及するため、地区分区及びボランティアのご協力のもと、各種の赤十字講習を開催しています。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、令和2年度は受講者及び指導員の安全確保と感染防止対策を盛り込んだ「新型コロナウイルス感染症に伴う赤十字講習実施要件」を策定し、受講者が安心して受講できる環境を整えながら講習の普及に努めました。

また、長野県赤十字有功会から寄贈いただいた心肺蘇生訓練人形（ミニアン）を活用した「児童・生徒のための BLS 短時間プログラム」を県内の小・中・高等学校で実施し、若年層への救急法及び赤十字思想の普及強化に取り組みました。



救急法

事故防止や手当での基本、人工呼吸や胸骨圧迫の方法、AED（自動体外式除細動器）による除細動、止血の仕方、災害時の心得等の知識と技術を習得できます。



水上安全法

水と親しみ、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法などの知識と技術を習得できます。



幼児安全法

乳幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気と発熱・けいれんなどの症状に対する手当などの知識と技術を習得できます。



健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術を習得できます。

(1) コロナ禍における赤十字講習の対応

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、令和2年4月～5月は全社的にすべての講習を中止とし、6月からは当支部が策定した「新型コロナウイルス感染症に伴う赤十字講習実施要件」に基づき、実技を制限した講義形式で再開しました。また、11月からは受講者及び指導員の安全確保と感染防止対策を講じたうえで、救急法基礎講習及び救急法短期講習（心肺蘇生とAEDを用いた除細動）に限り、一部の実技を伴うカリキュラム（暫定措置）を再開しました。



新型コロナウイルス感染症に伴う赤十字講習実施要件 (講習環境や指導内容などに条件を定め、条件を満たした講習のみ実施)



人と人が接触しない方法で実技を行うなど、感染防止対策を講じて実施した救急法基礎講習会

(2) 各種講習会の開催状況

| 講習区分 | | 資格者の養成 | | | 短期講習 | | 計 | |
|--------------|-------|-----------|-------------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| | | 実施 (回) | 受講者数 (人) | 養成者数 (人) | 実施 (回) | 受講者数 (人) | 実施 (回) | 受講者数 (人) |
| 救急法 | 基礎講習 | ※13 | 336 | 198 | 122 | 2,940 | 140 | 3,472 |
| | 救急員養成 | ※5 | 196 | 0 | | | | |
| 水 上 安 全 法 | I | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | II | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 健康生活支援講習 | | 0 | 0 | 0 | 9 | 212 | 9 | 212 |
| うち災害時高齢者生活支援 | | — | — | — | 6 | 130 | | |
| 幼 児 安 全 法 | | 0 | 0 | 0 | 19 | 411 | 19 | 411 |
| 合 計 | | 18 | 532 | 198 | 150 | 3,573 | 168 | 4,095 |

※学科のみ実施した講習を含む

(3) 支部主催による各種講習会

| 講習区分 | | 開 催 日 | 開 催 地 | 受講者数(人) |
|-------|---------|-----------|-------|---------|
| 救 急 法 | 基 礎 講 習 | 令和2年4月11日 | 大 町 市 | ※ 中止 |
| | | 4月12日 | 木 曽 町 | |
| | | 5月9日 | 上 田 市 | |
| | | 6月7日 | 長 野 市 | |
| | | 6月13日 | 松 本 市 | |
| | | 7月12日 | 小 諸 市 | |
| | | 9月19日 | 佐 久 市 | |
| | | 9月27日 | 松 川 町 | |
| | | 11月7日 | 上 田 市 | 13 |
| | | 11月28日 | 塩 尻 市 | 11 |
| | | 11月29日 | 諏 訪 市 | 8 |
| | | 令和3年2月14日 | 長 野 市 | ※ 中止 |

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

令和2年度 事業報告 | 救急法などの講習

| 講習区分 | | 開催日 | 開催地 | 受講者数(人) |
|--------------------|----------|------------------|-------|---------|
| 救 急 法 | 救急員養成講習 | 令和2年4月18日、19日 | 大 町 市 | |
| | | 4月25日、26日 | 木 曽 町 | |
| | | 5月16日、17日 | 上 田 市 | |
| | | 6月13日、14日 | 長 野 市 | |
| | | 6月20日、27日 | 松 本 市 | |
| | | 7月18日、19日 | 小 諸 市 | |
| | | 9月26日、27日 | 佐 久 市 | |
| | | 10月3日、4日 | 松 川 町 | |
| | | 11月14日、15日 | 上 田 市 | |
| | | 11月29日、12月6日 | 塩 尻 市 | |
| | | 12月5日、6日 | 諏 訪 市 | |
| | | 令和3年2月20日、21日 | 長 野 市 | |
| 水上安全法 | 救助員Ⅰ養成講習 | 令和2年6月7日、13日、14日 | 長 野 市 | ※ 中止 |
| | 救助員Ⅱ養成講習 | 8月22日、23日 | 信 濃 町 | |
| 健 康 生 活 支 援 講 習 | 支援員養成講習 | 8月1日、2日 | 安曇野市 | |
| | | 8月29日、30日 | 飯 山 市 | |
| | | 9月22日、23日 | 諏 訪 市 | |
| | 短 期 講 習 | 6月25日 | 諏 訪 市 | |
| | | 7月8日 | 安曇野市 | |
| | | 8月28日 | 飯 山 市 | |
| | | 10月17日 | 松 川 町 | |
| 幼児安全法 | 支援員養成講習 | 6月20日、21日 | 安曇野市 | |
| | | 8月10日、11日 | 諏 訪 市 | |
| | | 令和3年1月30日、31日 | 長 野 市 | |
| | 短 期 講 習 | 令和2年5月14日 | 安曇野市 | |
| | | 6月6日 | 飯 山 市 | |
| | | 6月10日 | 諏 訪 市 | |
| | | 6月29日 | 長 野 市 | |
| | | 8月29日 | 松 川 町 | |

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

(4) 若年層（児童・生徒）を対象とした救急法短期講習の推進

救急法の体験から他者への思いやりやいのちの大切さを学ぶことができる「児童・生徒のためのBLS短時間プログラム」を、県教育委員会の協力のもと、県内の小・中・高等学校において実施しました。

また、このプログラムは、長野県赤十字有功会のご協力により新たに整備した心肺蘇生訓練人形（ミニアン）70体を活用し、受講者同士が接触しないよう、十分な距離を確保して行うなど、接触感染防止対策に留意しながら実施しました。



赤十字の思想や活動の説明



ミニアンを活用した胸骨圧迫の実技

(5) 幼児安全法指導員の養成

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び実技を伴うカリキュラムが実施困難なことから、中止としました。

| 内 容 | 実 施 日 |
|---------|--------------------------------|
| 養 成 講 習 | 令和2年11月9日、10日、11日、19日、20日 ※ 中止 |

(6) 各種講習指導員研修及び指導員資格継続適性審査

講習普及の推進と指導員の知識・技術の確認を目的として、県内各地で開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、指導員へ関係資料を送付し、各自による内容確認としました。

また、指導員資格継続適性審査についても、同感染症の感染拡大防止及び実技を伴う審査が困難なことから、実施を見送ることとしました。

(7) 講習資材の整備

次の講習資材を整備しました。

| 品 目 | 数量（体） |
|----------------|-------|
| 心肺蘇生訓練人形（成人半身） | 43 |
| 心肺蘇生訓練人形（ミニアン） | 70 |



心肺蘇生訓練人形（成人半身）

心肺蘇生訓練人形（ミニアン）

6 日赤活動資金の募集



(日赤活動資金の募集に協力する赤十字奉仕団員)

救うを
託されている

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ための赤十字活動は、県民の皆さまからご支援いただく活動資金に支えられており、地区区分をはじめ自治会や奉仕団のご理解とご協力を得て、募集しています。活動資金の募集には、県民の皆さまの赤十字への理解が重要であるため、内容を充実させた分かり易い広報紙を作成して全戸に配布するとともに、戸別訪問を基本としつつ、利便性やニーズに応じた口座振替やクレジットカード決済の利用、さらには遺贈・相続財産の寄付などさまざまな方法を取り入れています。

また、法人・団体の皆さまには、ダイレクトメールを利用した活動資金への協力依頼や「赤十字支援マーク」の活用を呼びかけるとともに、長野マラソン大会組織委員会とのパートナーシップ協定の締結など、各種の連携強化にも努めています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されましたが、広報活動の充実強化を図るとともに、持続的・安定的に活動資金を募集するため、地区区分担当者との各種会議や訪問、アンケート等を実施して、コロナ禍における各地域の事情や募集事例の共有と合意形成を図りながら活動資金の確保に努めたことにより、支援者（会員・協力会員等）総数 268,056 人、活動資金の総額は 344,321,195 円となりました。

(1) 支援者（会員・協力会員等）の状況

| 種 別 | 令和2年度末 | 令和元年度末 | 増・減 |
|-----------|---------|---------|--------|
| 個 人(人) | 263,368 | 265,312 | －1,944 |
| 法 人(社・団体) | 4,688 | 4,745 | －57 |
| 合 計 | 268,056 | 270,057 | －2,001 |

(3) 法人・団体との連携

今後予想される大規模災害に備え、救護体制の一層の強化を図るとともに、救援物資の備蓄や救護機材の整備を推進するため、法人・団体の皆さまにはダイレクトメールによる赤十字活動資金への協力をお願いしました。

その結果、153社 から 13,029,000 円のご協力をいただき、備蓄用の毛布や無線基地局等の救護機材を整備しました。

また、長野マラソン大会組織委員会とは、パートナーシップ協定に基づき、社会貢献活動に協力する体制を継続しているほか、覚書を締結した企業には、「赤十字支援マーク」をご活用いただいています。



整備した救護機材（無線基地局）



備蓄用毛布

(4) 口座振替・クレジットカード決済・遺贈による活動資金の募集

戸別訪問による募集に加え、口座振替による支援者の加入やホームページからのクレジットカード決済による申込みのほか、金融機関や税理士協会・公認会計士協会など関係団体と協力し、遺贈や相続財産による寄付金も受け付けています。



口座振替による活動資金の申込書



クレジットカード決済による申込み

(5) 長野県支部日赤情報管理システムと全国会員情報管理システムの運用

地区分区の事務軽減と支部の事務合理化を目的に、長野県支部日赤情報管理統一システムを運用しています。県内の支援者の情報を一元管理することによって、活動資金の収納状況を把握できるとともに、各種報告及び統計資料の作成、表彰候補者のリストアップが可能となっています。

また、全国会員情報システムも導入し、運用しています。

(6) 表彰

日赤活動資金や赤十字事業の進展に尽くされた方に表彰を行いました。

| 表彰区分 | | | 表彰基準 | 個人 (人) | 法人 (社・団体) | 合計 |
|--------------|-------------|----|--|-----------|--------------|-----|
| 活動資金 | 紺綬褒章 | | 500 万円以上（個人） | 2 | 0 | 2 |
| | | | 1, 000 万円以上（法人） | | | |
| | 厚生労働大臣感謝状 | | 100 万円以上 500 万円未満（個人） | 11 | 4 | 15 |
| | | | 300 万円以上 1, 000 万円未満（法人） | | | |
| | 社資功労感謝状 | | 金色有功章受章後 50 万円以上 | 6 | 5 | 11 |
| | 有 功 章 | 金色 | 50 万円以上 | 7 | 3 | 10 |
| | | 銀色 | 20 万円以上 | 8 | 6 | 14 |
| | 小 計 | | | 34 | 18 | 52 |
| 役 職 | 有 功 章 | 金色 | 在職年数 6 年以上 ほか | 0 | 0 | 0 |
| | | 銀色 | 在職年数 3 年以上 ほか | 0 | 0 | 0 |
| | 小 計 | | | 0 | 0 | 0 |
| 協賛委員 | 有 功 章 | 金色 | 在職年数 10 年以上 | 0 | 0 | 0 |
| | | 銀色 | 在職年数 5 年以上 | 0 | 0 | 0 |
| | 小 計 | | | 0 | 0 | 0 |
| 奉仕団員等 奉仕者 | 業務功労感謝状 | | 金色有功章受章後 活動年数 10 年以上 | 0 | 0 | 0 |
| | 有 功 章 | 金色 | 活動年数 20 年以上 | 2 | 0 | 2 |
| | | 銀色 | 活動年数 15 年以上 | 10 | 0 | 10 |
| | 小 計 | | | 12 | 0 | 12 |
| 献 血 者 | 厚生労働大臣表彰状 | | 活動年数 30 年以上（個人） 活動年数 20 年以上（団体） 成分献血、400ml 献血の推進 | 0 | 2 | 2 |
| | 厚生労働大臣感謝状 | | 活動年数 20 年以上（個人） 活動年数 10 年以上（団体） | 0 | 9 | 9 |
| | 県献血推進協議会長表彰 | | 献血思想の普及等が顕著な 個人・団体 | 0 | 11 | 11 |
| | 有 功 章 | 金色 | 献血回数 100 回以上 | 120 | 0 | 120 |
| | | 銀色 | 献血回数 70 回以上 | 197 | 0 | 197 |
| | 小 計 | | | 317 | 22 | 339 |
| 合 計 | | | | 363 | 40 | 403 |

(7) 地区分区事務担当者会議等の開催

支部と地区分区の円滑な意思疎通と連携を強化するとともに、地域の実情や課題を共有しながら支部と地区分区が一体となって日赤活動資金の確保に取り組むため、地区分区担当者会議等を開催しました。

| 区 分 | 開催日 | 会 場 | 参加人数 |
|---------------------|--------------|-----------------|------|
| 地区分区事務担当者会議 (上期) | 令和2年 8月 25日 | 長野県支部 | 70 |
| | 27日 | 伊那市役所 501 会議室 | |
| | 28日 | 飯田合同庁舎 301 会議室 | |
| | 31日 | 佐久市臼田総合福祉センター | |
| | 令和2年 9月 1日 | 塩尻市保健福祉センター | |
| 地区分区事務担当課長会議 | 令和2年 12月 18日 | 長野県支部 | 24 |
| | 令和3年 1月 14日 | 塩尻市保健福祉センター | ※中止 |
| | 15日 | 伊那市役所 501 会議室 | ※中止 |
| 地区分区事務担当者会議 (下期) | 令和3年 3月 2日 | 長野県支部 | 63 |
| | 4日 | 塩尻市保健福祉センター | |
| | 5日 | 南信消費生活センター | |
| | 9日 | 佐久穂町生涯学習館 | |
| | 10日 | 伊那市防災コミュニティセンター | |

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

(8) 長野県赤十字有功会

ア 赤十字事業への協力

児童・生徒に対する救急法講習の普及・強化を図る心肺蘇生訓練人形（ミニアン）整備事業へ協力しました。



有功会から寄贈された講習教材



寄贈された講習教材を使用して
真剣に胸骨圧迫を体験する生徒



長野県赤十字有功会

日本赤十字社に対し、多額の寄付をされた「有功章受章者」の有志により平成6年3月に設立された、赤十字事業の伸展に協力する支援団体です。

会員数：個人 126 名 法人 70 社（令和3年3月31日現在）

(9) 赤十字思想の普及

赤十字活動を推進するためには、赤十字事業への協力者と財源の確保が必要不可欠であることから、赤十字への理解を深めていただくため、例年5月を中心に赤十字広報強化月間を実施しています。令和2年度においては4月～8月を広報強化月間とし、テレビCMの放映、テレビ番組の出演及び新聞広告の掲載等のマスコミを活用した広報活動を実施するとともに、各地域の感染状況や実情に応じて、Web講演などを実施しました。

ア 赤十字広報強化月間（4月～8月）

テレビ、新聞及びラジオ等のマスコミを活用し、次のとおり集中的な広報活動に取り組みました。

(ア) テレビCMの放映（「あなたの手となり、ぬくもりとなり」(本社制作)）

放送実績：634回（5月1日～5月31日）

放送局：テレビ信州（TSB）、長野朝日放送（ABN）、信越放送（SBC）、長野放送（NBS）



① そのまなざしは



② あなたのまなざしだ。



③ そのぬくもりは、



④ あなたのぬくもりだ。



⑤ あなたに託されて、



⑥ 赤十字は



⑦ そへ行く。



⑧ 救いを託されている。日本赤十字社。



⑨ そして、今も。

(イ) テレビ・ラジオ番組への出演

| 放送局 | 番組名 | 放送日時 |
|-------------|---------------------|--------------|
| 信越放送（SBC） | HOT情報 | 6月23日 15:49～ |
| 長野放送（NBS） | 暮らしのターミナル | 6月30日 11:20～ |
| | ふるさとライブ | 8月4日 16:20～ |
| テレビ信州（TSB） | F r e s h (アウンサー読み) | 6月8日 10:25～ |
| | F r e s h | 6月18日 10:25～ |
| | ゆうがたG e t ! | 7月10日 17:30～ |
| 長野朝日放送（ABN） | 今ドキ！ゆうドキッ | 6月23日 16:32～ |
| FM-NAGANO | O a s i s 79.7 | 8月12日 9:04～ |
| SBC 信越放送ラジオ | つれづれ散歩道 | 8月29日 10:20～ |

(ウ) 新聞広告の掲載

信濃毎日新聞（5・6・7・8・12月） 計5回（追加掲載含む）



7月掲載

(※「信濃毎日新聞広告賞（特別賞）」を受賞し、8月に追加掲載されました。)

(エ) ラジオ CM の放送

活動資金募集のため、FM 長野及び信越放送ラジオにおいて、当支部制作のラジオ CM (20 秒) を、通年で 487 本放送しました。

(オ) 世界赤十字デー レッドライトアップの実施

善光寺・松本城及び長野・諏訪・安曇野赤十字病院において、5月8日（世界赤十字デー）にレッドライトアップを予定しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して中止としました。

イ 赤十字施設におけるイベント

県内赤十字施設では、赤十字運動月間である5月をスタートとして、5月8日（世界赤十字デー）や5月12日（看護の日）を中心にイベントを開催して広く一般の方々に赤十字事業への理解と協力を求めるとともに、地域住民との交流や健康に役立つ各種の講座も開催しています。

| 施設名 | イベント名 | 実施日 | 内 容 |
|---------|-----------|----------------------|---|
| 長野赤十字病院 | 赤十字週間 | 令和2年 5月8日 ～15日 | 赤十字活動 PR のためのパネル 展示、院長・看護部長・事務部長 による赤十字活動の紹介、 ライトアップ |
| | がんと向きあう週間 | 10月5日 ～11日 | ライトアップ、院長による 院内放送、がん相談支援 センター活動報告 |
| | 世界糖尿病デー | 11月11日 ～15日 | ライトアップ、院長による院内 放送 |

令和2年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

| 施設名 | イベント名 | 実施日 | 内 容 |
|----------|------------------------------------|----------------------------------|--|
| 長野赤十字病院 | ピンクリボン運動 | 令和2年 10月26日 ～30日 | ライトアップ |
| | 世界緑内障週間 | 令和3年 3月7日 ～13日 | ライトアップ |
| | 病院祭代替事業 | 広報誌 「わかさと」 秋冬号 | 当院支援について地域住民へのお礼の記事の掲載 |
| 諏訪赤十字病院 | 世界糖尿病デー | 令和2年 11月14日 | スライドの掲示、クロスカフェでの適正カロリーメニューの提供、ブルーライトアップ |
| | 3.11 イベント 「ACTION! 防災・減災」啓発イベント | 令和3年 3月11日 | 企画のポスター展示、プラズマディスプレイによる周知、義援金の受付、日本赤十字社のチラシ設置 |
| 安曇野赤十字病院 | 看護の日 | 令和2年 5月8日 ～12日 | 院内各所にポスターの掲示、記念グッズの配布 |
| | 糖尿病啓発キャンペーン | 11月14日 | 世界糖尿病デーに合わせて看板のブルーライトアップ |
| | 肝がん撲滅運動 市民公開講座 | 12月14日 ～20日 | 一般社団法人日本肝臓学会と協力し市民向け講座を地元ケーブルテレビとWEB上で放映 |
| | クリスマス関連 | 12月21日 ～25日 | 病棟にクリスマスツリーを設置 |
| | 街路樹イルミネーション | 令和2年 12月24日 ～令和3年 2月28日 | 地域を明るくすることを目的に市民や企業と協力して街路樹を装飾 |
| 飯山赤十字病院 | 赤十字運動月間 キャンペーン | 令和2年 5月1日 ～31日 | 赤十字に関するパンフレット配布等 |
| | ふれあい講座 | 令和3年 2月1日 ～28日 | 「健康に長生きしよう」 「新型コロナウイルスを防ぐ 手洗いと消毒について」 医師、薬剤師による講演を ケーブルテレビにて放映 |

令和2年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

| 施設名 | イベント名 | 実施日 | 内 容 |
|------------------|-------------------|---------------------------|-------------------------------------|
| 飯山赤十字病院 | 震災復興・防災イベント | 令和3年 3月1日 ～31日 | ポスター展示 |
| | 出前講座 | 通 年 | 地域の予防医学に関する各種講演 |
| 下伊那赤十字病院 | 赤十字月間 | 令和2年 5月1日 ～31日 | パネル展示 |
| | ラベンダー花摘み ポプリ作り | 7月2日 | 感染対策を行い、地域日赤奉仕団によるラベンダー花摘み・ポプリ作りを実施 |
| | ACTION！防災・減災活動 | 令和3年 3月1日 ～31日 | ポスター等を掲示 |
| | 出前講座 | 通 年 | 医療講演、認定看護師等による講演 |
| 川西赤十字病院 | 1日看護師体験 | 令和2年 8月5日 6日 16日 | 高校生による1日看護師体験 |
| | 消防署合同 救急法講習会 | 11月7日 | 地域住民向け救急法講習会 |
| 長野県赤十字 血液センター | 学生クリスマス キャンペーン | 12月6日 19日 | 学生ボランティアと街頭にて 献血協力及び献血PR |
| | 献血体験 キャンペーン | 2回開催 | 献血ルームから遠方の地域において献血を体験していただくため実施 |
| 松本赤十字乳児院 | わくポケ親子広場 | 8回開催 | 近隣の親子を招き、料理・ベビードダンス・ベビ योग等を実施 |

ウ 各種広報資材の配布

赤十字広報強化月間に集中的な広報を図るため、「全戸配布チラシ」などの配布に努めるとともに、地区区分区のご協力により「赤十字運動用ポスター」の掲示も行いました。

| 資材名 | 配布数(部) |
|------------|---------|
| 全戸配布チラシ | 800,000 |
| 赤十字運動用ポスター | 4,712 |
| リーフレット | 22,000 |



全戸配布チラシ

(10) 長野県支部ホームページ

より多くの方々に赤十字をご理解いただくため、赤十字思想の普及に努めました。なお、ホームページの主な掲載内容は次のとおりです。

- ・ 赤十字事業の紹介
- ・ 救急法等講習会の情報
- ・ 講習会指導員向け情報
- ・ 地区区分区事務局向け情報
- ・ 青少年赤十字指導者向け情報
- ・ 義援金、救援金の募集情報
- ・ 赤十字イベントの紹介
- ・ 「ハートラちゃん」活躍の紹介



長野県支部ホームページ

(11) 長野県赤十字歴史資料館

長野県赤十字歴史資料館には、県内外から多くの方々にご来館いただいています。

平成20年4月の開館以来、令和3年3月31日までの来館者は、9,667人を数えています。



長野県赤十字歴史資料館



長野県赤十字歴史資料館

「旧支部事務所」(明治32年建設)の大部分は、老朽化により平成19年に取り壊すこととなりましたが、赤十字の礎を築いた「救護看護婦」を戦地へと送り出した「正面玄関」と「支部長室」を改修・保存し、解体した建物の屋根瓦・ガラス窓等を再利用して、建設当時の姿を出来る限り復元しました。貴重な資料を展示し、先人の偉功を後世に伝えています。

(2) 日赤活動資金の募集実績

| 区 分 | 目標額 (千円) | 実績額 (円) | 達成率 (%) | 実績額内訳 (円) | | | 前年度実績額 (円) |
|------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|---------------|
| | | | | 市町村受付 | 口座振替 | クレジットカード | |
| 長野市 | 56,711 | 49,526,708 | 87.3 | 47,268,708 | 1,200,000 | 1,058,000 | 50,241,477 |
| 松本市 | 37,822 | 25,993,247 | 68.7 | 25,145,247 | 486,000 | 362,000 | 25,535,203 |
| 上田市 | 23,042 | 13,608,745 | 59.1 | 13,332,745 | 106,000 | 170,000 | 13,352,602 |
| 岡谷市 | 7,100 | 6,290,424 | 88.6 | 6,239,806 | 17,000 | 33,618 | 6,276,611 |
| 飯田市 | 13,750 | 14,955,455 | 108.8 | 14,832,455 | 74,000 | 49,000 | 16,818,890 |
| 諏訪市 | 7,692 | 7,980,446 | 103.7 | 7,721,446 | 192,000 | 67,000 | 7,897,718 |
| 須坂市 | 6,934 | 5,892,437 | 85.0 | 5,746,437 | 32,000 | 114,000 | 5,767,982 |
| 小諸市 | 5,889 | 6,114,500 | 103.8 | 5,801,500 | 258,000 | 55,000 | 6,058,550 |
| 伊那市 | 9,988 | 8,436,209 | 84.5 | 8,205,209 | 85,000 | 146,000 | 8,099,672 |
| 駒ヶ根市 | 4,868 | 3,608,760 | 74.1 | 3,593,760 | 3,000 | 12,000 | 3,666,312 |
| 中野市 | 5,542 | 5,773,806 | 104.2 | 5,601,806 | 142,000 | 30,000 | 5,725,405 |
| 大町市 | 3,827 | 4,008,050 | 104.7 | 3,714,050 | 228,000 | 66,000 | 3,911,050 |
| 飯山市 | 2,516 | 2,189,908 | 87.0 | 2,159,908 | - | 30,000 | 2,302,446 |
| 茅野市 | 8,260 | 5,379,205 | 65.1 | 5,330,205 | 37,000 | 12,000 | 5,405,042 |
| 塩尻市 | 9,842 | 7,732,092 | 78.6 | 6,787,092 | 904,000 | 41,000 | 7,733,662 |
| 佐久市 | 14,055 | 11,804,477 | 84.0 | 11,350,477 | 378,000 | 76,000 | 12,174,215 |
| 千曲市 | 7,930 | 11,791,329 | 148.7 | 11,512,329 | 156,000 | 123,000 | 16,386,390 |
| 東御市 | 4,021 | 4,241,900 | 105.5 | 4,083,900 | 36,000 | 122,000 | 4,237,408 |
| 安曇野市 | 13,311 | 13,651,596 | 102.6 | 13,306,596 | 125,000 | 220,000 | 13,221,398 |
| 小海町 | 630 | 1,492,500 | 236.9 | 1,428,500 | - | 64,000 | 1,457,500 |
| 佐久穂町 | 1,332 | 1,544,250 | 115.9 | 1,544,250 | - | - | 1,571,950 |
| 川上村 | 578 | 580,600 | 100.4 | 560,600 | - | 20,000 | 574,150 |
| 南牧村 | 426 | 336,000 | 78.9 | 336,000 | - | - | 364,000 |
| 南相木村 | 142 | 366,500 | 258.1 | 366,500 | - | - | 361,500 |
| 北相木村 | 106 | 174,451 | 164.6 | 174,451 | - | - | 151,000 |
| 軽井沢町 | 3,860 | 3,627,110 | 94.0 | 3,575,110 | 24,000 | 28,000 | 2,646,820 |
| 御代田町 | 2,420 | 2,773,700 | 114.6 | 2,737,700 | 36,000 | - | 2,753,187 |
| 立科町 | 927 | 1,331,000 | 143.6 | 1,331,000 | - | - | 1,286,000 |
| 長和町 | 767 | 1,301,200 | 169.6 | 1,260,200 | 5,000 | 36,000 | 1,347,700 |
| 青木村 | 522 | 689,847 | 132.2 | 689,847 | - | - | 691,110 |
| 下諏訪町 | 2,849 | 3,066,369 | 107.6 | 3,061,369 | 5,000 | - | 2,927,212 |
| 富士見町 | 1,934 | 1,993,542 | 103.1 | 1,955,542 | 38,000 | - | 1,909,319 |

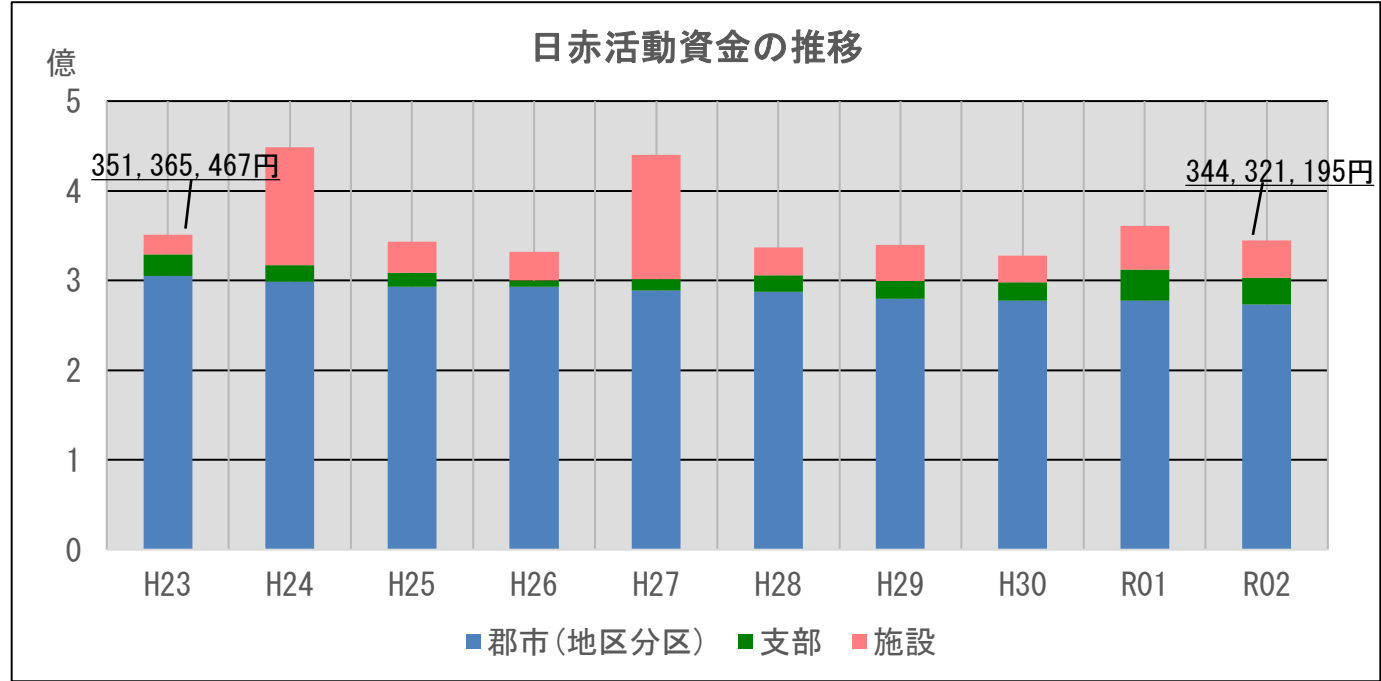
令和2年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

| 区 分 | 目標額 (千円) | 実績額 (円) | 達成率 (%) | 実績額内訳 (円) | | | 前年度実績額 (円) |
|------|-------------|------------|------------|-----------|--------|----------|---------------|
| | | | | 市町村受付 | 口座振替 | クレジットカード | |
| 原村 | 1,052 | 971,394 | 92.3 | 881,394 | 30,000 | 60,000 | 952,436 |
| 辰野町 | 2,747 | 2,866,041 | 104.3 | 2,845,041 | - | 21,000 | 2,751,756 |
| 箕輪町 | 3,747 | 3,563,800 | 95.1 | 3,503,800 | 60,000 | - | 3,615,410 |
| 飯島町 | 1,204 | 2,310,800 | 191.9 | 2,217,800 | - | 93,000 | 2,289,300 |
| 南箕輪村 | 2,400 | 1,802,200 | 75.1 | 1,662,200 | 2,000 | 138,000 | 1,657,644 |
| 中川村 | 579 | 708,000 | 122.3 | 708,000 | - | - | 705,501 |
| 宮田村 | 1,272 | 1,614,100 | 126.9 | 1,562,100 | - | 52,000 | 1,543,700 |
| 松川町 | 1,588 | 1,629,500 | 102.6 | 1,598,500 | 5,000 | 26,000 | 1,679,000 |
| 高森町 | 1,553 | 1,136,602 | 73.2 | 1,116,602 | 20,000 | - | 1,131,364 |
| 阿南町 | 498 | 612,300 | 123.0 | 612,300 | - | - | 625,710 |
| 阿智村 | 753 | 837,054 | 111.2 | 835,054 | - | 2,000 | 938,800 |
| 平谷村 | 62 | 71,500 | 115.3 | 71,500 | - | - | 70,500 |
| 根羽村 | 125 | 160,000 | 128.0 | 160,000 | - | - | 165,500 |
| 下條村 | 398 | 633,400 | 159.1 | 633,400 | - | - | 678,800 |
| 売木村 | 77 | 158,200 | 205.5 | 158,200 | - | - | 155,300 |
| 天龍村 | 179 | 371,000 | 207.3 | 371,000 | - | - | 350,500 |
| 泰阜村 | 206 | 263,500 | 127.9 | 263,500 | - | - | 278,000 |
| 喬木村 | 693 | 806,500 | 116.4 | 806,500 | - | - | 821,500 |
| 豊丘村 | 743 | 549,128 | 73.9 | 549,128 | - | - | 528,205 |
| 大鹿村 | 146 | 212,700 | 145.7 | 212,700 | - | - | 216,200 |
| 上松町 | 602 | 1,433,415 | 238.1 | 1,433,415 | - | - | 1,466,200 |
| 南木曽町 | 539 | 780,000 | 144.7 | 780,000 | - | - | 771,000 |
| 木曽町 | 1,657 | 1,957,071 | 118.1 | 1,917,071 | 20,000 | 20,000 | 1,865,701 |
| 木祖村 | 343 | 389,230 | 113.5 | 389,230 | - | - | 387,761 |
| 王滝村 | 118 | 293,400 | 248.6 | 293,400 | - | - | 287,259 |
| 大桑村 | 528 | 617,360 | 116.9 | 617,360 | - | - | 625,380 |
| 麻績村 | 326 | 338,650 | 103.9 | 338,650 | - | - | 339,403 |
| 生坂村 | 214 | 342,020 | 159.8 | 342,020 | - | - | 339,800 |
| 山形村 | 1,069 | 1,265,400 | 118.4 | 1,265,400 | - | - | 1,272,600 |
| 朝日村 | 523 | 601,500 | 115.0 | 597,500 | 4,000 | - | 602,300 |
| 筑北村 | 562 | 803,301 | 142.9 | 793,301 | - | 10,000 | 798,201 |
| 池田町 | 1,220 | 1,363,980 | 111.8 | 1,307,980 | 24,000 | 32,000 | 1,334,640 |
| 松川村 | 1,216 | 1,291,100 | 106.2 | 1,259,100 | - | 32,000 | 1,359,400 |

令和2年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

| 区 分 | 目標額 (千円) | 実績額 (円) | 達成率 (%) | 実績額内訳 (円) | | | 前年度実績額 (円) |
|-----------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|-----------|---------------|
| | | | | 市町村受付 | 口座振替 | クレジットカード | |
| 白馬村 | 1,218 | 1,449,740 | 119.0 | 1,437,740 | 2,000 | 10,000 | 1,098,000 |
| 小谷村 | 390 | 640,900 | 164.3 | 640,900 | - | - | 649,000 |
| 坂城町 | 2,398 | 3,066,361 | 127.9 | 3,009,361 | 30,000 | 27,000 | 2,840,301 |
| 小布施町 | 1,302 | 681,077 | 52.3 | 591,077 | 90,000 | - | 703,010 |
| 高山村 | 840 | 762,500 | 90.8 | 762,500 | - | - | 739,000 |
| 山ノ内町 | 1,479 | 1,653,352 | 111.8 | 1,617,352 | 36,000 | - | 1,633,429 |
| 木島平村 | 526 | 453,649 | 86.2 | 453,649 | - | - | 447,260 |
| 野沢温泉村 | 399 | 442,835 | 111.0 | 392,835 | - | 50,000 | 405,730 |
| 栄村 | 236 | 281,500 | 119.3 | 281,500 | - | - | 307,500 |
| 信濃町 | 1,038 | 1,124,215 | 108.3 | 1,124,215 | - | - | 1,156,565 |
| 飯綱町 | 1,320 | 1,594,941 | 120.8 | 1,581,941 | 7,000 | 6,000 | 1,518,740 |
| 小川村 | 322 | 343,410 | 106.6 | 343,410 | - | - | 340,762 |
| 市 計 | 243,100 | 208,979,294 | 86.0 | 201,733,676 | 4,459,000 | 2,786,618 | 214,812,033 |
| 町村計 | 56,900 | 64,525,695 | 113.4 | 63,360,695 | 438,000 | 727,000 | 62,485,516 |
| 市町村計 | 300,000 | 273,504,989 | 91.2 | 265,094,371 | 4,897,000 | 3,513,618 | 277,297,549 |
| 支部扱 | | 29,514,206 | | - | - | 32,000 | 34,591,525 |
| 指定事業海外救援金 | | - | | - | - | - | 40,000 |
| 小 計(①) | | 303,019,195 | | 265,094,371 | 4,897,000 | 3,545,618 | 311,929,074 |

| | | | | | | | |
|----------|---|-------------|--|---|---|---|-------------|
| 施設扱計(②) | - | 41,302,000 | | - | - | - | 48,709,410 |
| 合 計(①+②) | - | 344,321,195 | | - | - | - | 360,638,484 |



7 医療事業



(内視鏡を使用した診察 諏訪赤十字病院)

質の高い
医療の提供を

赤十字病院は、医療法における公的医療機関として、救急医療、がんなどの高度専門医療、生活習慣病の予防や高齢社会での在宅医療、へき地医療などを積極的に行うなど地域に根ざした医療を提供するとともに、安全・安心な医療環境を確保するためのさまざまな取り組みを強化しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症という未知の病気に対応するとともに、極度に緊迫した状況が続く中で、人々の命を守り、地域の医療を支えるために日々奮闘しています。

(1) 患者受入数

| | 入院患者数（人） | | 外来患者数（人） | | 救急患者数（人） | | | |
|----------|----------|-------|----------|-------|----------|--------|-------|--------|
| | 延人数 | 1日平均 | 延人数 | 1日平均 | 時間内 | 時間外 | 深夜 | 合計 |
| 長野赤十字病院 | 202,152 | 551 | 325,465 | 1,345 | 2,295 | 7,973 | 2,340 | 12,608 |
| 諏訪赤十字病院 | 126,935 | 348 | 210,254 | 865 | 6,158 | 5,791 | 1,600 | 13,549 |
| 安曇野赤十字病院 | 82,163 | 225 | 95,153 | 393 | 2,755 | 3,467 | 700 | 6,922 |
| 飯山赤十字病院 | 77,175 | 211 | 88,914 | 367 | 5,250 | 1,550 | 382 | 7,182 |
| 下伊那赤十字病院 | 25,244 | 68 | 51,907 | 211 | 208 | 571 | 89 | 868 |
| 川西赤十字病院 | 26,007 | 71 | 16,466 | 68 | 67 | 191 | 13 | 271 |
| 合計 | 539,676 | 1,474 | 788,159 | 3,249 | 16,733 | 19,543 | 5,124 | 41,400 |
| 前年度 | 619,874 | 1,693 | 850,640 | 3,539 | 15,693 | 30,212 | 7,740 | 53,645 |

(2) 主な施設の整備状況

| 病 院 名 | 整 備 状 況 |
|-----------------|---|
| 長 野 赤 十 字 病 院 | 西棟冷温水発生機整備（オーバーホール）、 吸収式冷凍機整備（オーバーホール）、臨時駐車場拡張工事、 Wi-Fi ネットワーク工事、サテライト HCU 設置 |
| 諏 訪 赤 十 字 病 院 | 歯科病棟診察室改修工事（増室） |
| 安 曇 野 赤 十 字 病 院 | 直流電源装置・無停電装置部品交換、CT 室等エアコン修理、 吸引ポンプ分解整備・修理 |
| 飯 山 赤 十 字 病 院 | 既存棟・増築棟屋根部分防水改修工事（第2期） |
| 下 伊 那 赤 十 字 病 院 | 南棟ファンコイルユニット整備 |
| 川 西 赤 十 字 病 院 | エレベーター改修工事、小貨物専用昇降機改修工事、 厨房床補修工事、住宅屋根修繕工事（2棟） |

(3) 主な医療機器等の整備状況

| 病 院 名 | 整 備 状 況 |
|-----------------|--|
| 長 野 赤 十 字 病 院 | 人工呼吸器、全身麻酔装置、末梢血幹細胞採取装置、 内視鏡手術システム、移動型 X 線透視装置、 ENT（手術）ナビゲーションシステム、超音波断層装置、 セントラルモニター、自動ジェット式超音波洗浄装置 |
| 諏 訪 赤 十 字 病 院 | PCR 装置（GeneXpert System）、人工呼吸器、AI 検温器 （センスサンダー）、バイオハザード対策用キャビネット、 簡易陰圧排気 HEPA フィルターユニット、生化学自動分析装置、 超音波診断装置、気管支鏡、ポータブル撮影装置、バリフード、 ライトストライク、生体情報モニター、採痰ブース、保育器 |
| 安 曇 野 赤 十 字 病 院 | X 線テレビ装置、個人用透析装置、セントラルモニター、 ベットサイドモニター、人工呼吸器、リアルタイム濁度測定装置、 免疫発光測定装置 |
| 飯 山 赤 十 字 病 院 | 調剤器機一式、医用画像診断支援システム、超音波診断装置、 セントラルモニター |
| 下 伊 那 赤 十 字 病 院 | 多種多用途透析装置及び個人用 R0 装置、 全自動化学発光酵素免疫測定装置 |
| 川 西 赤 十 字 病 院 | 骨塩量測定装置、嚥下内視鏡システム（VE）、医療用ベッド、 高規格救急車、訪問看護車 |

(4) 安曇野赤十字病院 多目的X線TV装置の更新

消化器内視鏡、消化管造影、尿路造影、脊髓腔造影など、さまざまな検査に対応可能な新たな多目的X線TV装置2台を整備しました。新装置は、従来よりも解像度の高い画像撮影が可能となることに加え、患者さんの身体に負担をかけることなく全身の検査が行えることから、より質の高い安全・安心な医療の提供が期待されています。



| | |
|---------|-----------------|
| 整備年月日 | 令和3年1月17日 |
| 機 器 名 | 多目的X線TV装置 |
| 充 当 財 源 | 59,620 千円（自己資金） |

(5) 下伊那赤十字病院 透析用監視装置の更新

現有する透析用監視装置の経年劣化に伴い、最新の装置を導入しました。本装置には、血液量モニター、透析量モニター、静的静脈圧監視機能等、多彩なモニタリング機能が搭載されており、治療の状況を迅速かつ正確に把握できるため、より安心して治療を受けていただくことが可能となりました。



| | |
|---------|----------------|
| 整備年月日 | 令和3年3月23日 |
| 機 器 名 | 透析用監視装置一式 |
| 充 当 財 源 | 10,340 千円（補助金） |

8 看護師養成



全ての人に
寄り添う心を

(戴帽式 諏訪赤十字看護専門学校)

赤十字の看護専門学校では、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に基づき、豊かな人間性を育み看護に関する幅広い能力を備え、保健医療や国内外の医療救援活動など広く社会に貢献できる赤十字看護師を養成しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止し、安全・安心な学校生活を送れるよう、登校時の健康チェックや3密を避けるなどの標準予防策を徹底しました。また、授業は、オンラインを活用したり、病院に代えて学校の実習室を医療現場の看護場面に再現したりするなど、感染防止対策と工夫を重ねながら実施しました。

(1) 県内赤十字看護専門学校

県内には、長野（明治28年開校）と諏訪（大正12年開校）に赤十字看護専門学校があり、これまでに6,339人（長野3,703人、諏訪2,636人）の卒業生を送り出しました。

令和2年度は、諏訪赤十字看護専門学校に39人が入学しました。入学生は3年間勉学に励み、卒業後は看護師として広く活躍することが期待されています。



戴帽式（諏訪赤十字看護専門学校）



卒業式（長野赤十字看護専門学校）



看護学生による災害救護演習

(左：長野赤十字看護専門学校、右：諏訪赤十字看護専門学校)



授業風景

(左：長野赤十字看護専門学校、右：諏訪赤十字看護専門学校)

(2) 日本赤十字豊田看護大学支部長推薦の実施

中部圏で唯一の赤十字看護大学として愛知県豊田市に設置されている日本赤十字豊田看護大学に、令和3年度入学生として長野県支部から6人を推薦しました。

令和2年度看護師養成課程を修了した6人の卒業生は、県内の赤十字病院（長野1人、諏訪4人、飯山1人）に就職しました。

これまでに100人の卒業生が県内赤十字病院（長野38人、諏訪35人、安曇野11人、飯山13人、下伊那3人）に勤務し、各方面で活躍しています。

9 血液事業



(献血バス内での採血の様子)

献血で助かる
命のために

新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、テレワークやオンライン授業の普及などによって、献血を取り巻く社会環境が大きく変化しています。このような状況の中、赤十字血液センターでは、病気やケガで輸血を必要とする人のため、皆さまに献血をお願いするとともに、検査・製剤化された血液を医療機関へお届けしています。

献血された血液は、血液型や種々の感染症検査を行い、安全性の高い輸血用血液製剤として24時間体制で医療機関に供給しています。

また、県を越えた広域的な事業運営を推進していくため、関東甲信越ブロックセンターの地域血液センターとして、更なる血液製剤の安定的な供給の促進と効率的な事業運営に取り組んでいます。

(1) 血液センター別の献血者数

| 区 分 | | 長野センター | 献血ルーム (長野) | 献血ルーム (松本) | 諏訪出張所 | 合 計 |
|--------------|-------|--------|---------------|---------------|--------|--------|
| 目標人数 | | 17,742 | 21,880 | 18,200 | 19,634 | 77,456 |
| 献血種別 献血者数 | 200mL | 4 | 417 | 350 | 75 | 846 |
| | 400mL | 17,021 | 7,407 | 6,746 | 16,697 | 47,871 |
| | 成分 | 0 | 14,062 | 12,757 | 3,768 | 30,587 |
| 献血者数計 | | 17,025 | 21,886 | 19,853 | 20,540 | 79,304 |
| 達成率 (%) | | 96.0 | 100.0 | 109.1 | 104.6 | 102.4 |
| 前年度献血者数 | | 15,838 | 21,521 | 17,654 | 20,003 | 75,016 |

(2) 血液型別複数回献血クラブ「ラブラッド」

安全性の高い血液製剤を迅速かつ安定的に供給するためには、あらかじめ献血いただける方に登録していただき、緊急時や不足時にご協力いただくことが必要です。

血液センターでは、日頃から多くの県民に献血への理解を深めていただけるよう、定期的に献血していただける方々に複数回献血クラブ「ラブラッド」への入会をお願いし、電子メール等により献血への協力のお願いをしています。

(3) 原料血漿の確保

血漿分画製剤を含むすべての血液製剤を国内献血により確保するため、厚生労働省から示された目標量の確保に努めています。

(4) 献血体験キャンペーンの開催

地域住民に血液事業の重要性を啓発するとともに、献血の機会を提供するため、長野県と協働で「献血体験キャンペーン」を佐久市及び中野市において開催し、5日間で349人の方にご協力いただきました。



献血体験キャンペーン（イオンモール佐久平）

(5) 長野日本大学中学・高等学校生徒会による寄贈

令和2年6月9日、長野日本大学中学・高等学校生徒会から「献血者募集のために献血に役立てていただきたい」とスタッフ用ジャンパー10着を寄贈いただきました。このジャンパーは、令和2年3月1日に結成された長野県学生献血推進連盟「結(ゆい)」の学生ボランティアが着用し、若年層献血者の献血者募集活動を中心に活用しています。



寄贈されたスタッフ用ジャンパー



ジャンパーロゴマーク

10 社会福祉事業



(松本赤十字乳児院 遠足)

安心して元気な
社会を目指して

超高齢社会を迎える日本では、介護や生活支援を必要とする高齢者が増えているにもかかわらず、生活を支える体制が十分ではありません。また、地域住民同士のつながりが希薄になることにより、子育てや介護に不安を感じ、地域から孤立する家庭が増えています。

赤十字は、社会的な支援を必要とする方々が個人の尊厳を持って、その人らしい自立した生活を送ること、また、誰もが安心して元気に生活できる社会を目指して、社会福祉事業を行っています。

(1) 松本赤十字乳児院

児童福祉法の理念と赤十字の人道・博愛の精神のもと、さまざまな事情により家庭で養育できない乳幼児を保護者に代わり昼夜お預かりしています。

院舎では、小規模グループケアの拡充により子供たちが家庭的な環境の中、安全で健やかな生活を送るとともに、地域における子育て支援の拠点として機能の充実を図り、利用者に寄り添った幅広い支援を行いました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、手指消毒及びマスクの着用を徹底するとともに、入所している子どもと面会する親子の交流の自粛をお願いするなど、子どもを守る取り組みに努めました。

また、松本児童相談所、松本市、塩尻市が企画する「信州松本・新しい育みプロジェクト」の活動として、里親支援の推進に加え、育児に悩みを抱えた家庭を対象に当院の職員が訪問型の支援を行う養育支援訪問事業、地域における子育て支援体制の基盤づくりにも取り組んでいます。

ア 制度別利用状況（入所定員 18 名）

| 制度 | 実人数 | 延日数 |
|---------|-----|-------|
| 入 所 | 12 | 5,019 |
| 一 時 保 護 | 12 | 353 |
| ショートステイ | 40 | 130 |
| 計 | 78 | 5,502 |



院庭でひなたぼっこ

イ 入所乳幼児の年間入所理由内訳 (人)

| 虐 待 | 家族疾病 | 家庭環境 | 母未婚 | 児疾病 | 家出 | その他 | 計 |
|-----|------|------|-----|-----|----|-----|----|
| 0 | 2 | 3 | 5 | 1 | 0 | 1 | 12 |

※その他：特別養子縁組ほか

ウ 育児相談実施状況（テレフォン育児相談 「赤ちゃん 110 番」） (回)

| しつけ | 発育・発達 | 身体症状等 | 栄 養 | その他 | 計 |
|-----|-------|-------|-----|-----|----|
| 23 | 28 | 7 | 11 | 6 | 75 |

※その他：保護者の相談ほか

エ 事業実施状況

| 事業内容 | 開催回数 | 参加人数 |
|-----------------------|------|------|
| マタニティ教室 | 7 | 12 |
| 子育て支援講座 (1 回 4 講座) | 2 | 15 |
| わくポケ親子広場 | 6 | 73 |
| 里 親 交 流 会 | 6 | 36 |
| 養 育 支 援 訪 問 | 92 | 92 |



わくポケ親子広場

(2) にこにこ赤十字健康教室

平成7年度に、故ブレーズ・コンスタンチン氏の遺贈金をもとに創設された社会福祉事業基金を活用して「にこにこ赤十字健康教室」事業を立ち上げ、以来、高齢者を対象に、健康に関するさまざまなプログラムや紙芝居を盛り込んだ健康教室を県内各地で開催しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、参加者の健康と安全及び感染拡大防止を第一に考え、開催を見送ることとしました。

11 評議員会



より信頼される
赤十字へ

(例年開催している評議員会)

評議員会において、次のとおり事業報告、決算、事業計画（案）及び予算（案）について審議が行われました。

(1) 令和2年7月21日（文書審議）

第1号議案 令和元年度事業報告について

第2号議案 令和元年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算について
審議の結果、原案のとおり承認されました。

(2) 令和3年2月9日（文書審議）

第1号議案 令和3年度事業計画（案）について

第2号議案 平成3年度一般会計及び特別会計歳入歳出予算（案）について
審議の結果、原案のとおり承認されました。



評議員会

県内の赤十字の会員の中から 選出された評議員で組織され、支部の重要な業務について審議する機関のことです。

12 監査報告



支部及び県内赤十字施設の令和2年度事業にかかる監査委員監査を、次のとおり実施しました。

| | | |
|---------|-------|-------|
| 監 査 委 員 | 三木 正夫 | 小澤 輝彦 |
|---------|-------|-------|

| 施 設 名 | 監査実施年月日 |
|-----------------|----------|
| 長 野 赤 十 字 病 院 | 令和3年6月2日 |
| 諏 訪 赤 十 字 病 院 | 5月28日 |
| 安 曇 野 赤 十 字 病 院 | 5月28日 |
| 飯 山 赤 十 字 病 院 | 6月2日 |
| 下 伊 那 赤 十 字 病 院 | 5月28日 |
| 川 西 赤 十 字 病 院 | 5月28日 |
| 松 本 赤 十 字 乳 児 院 | 5月28日 |
| 長野県赤十字血液センター | 6月2日 |
| 日本赤十字社長野県支部 | 6月2日 |

令和元年度決算から三様監査体制を導入し、会計については本社が契約する監査法人による監査が実施されました。

例年、監査委員監査は、監査委員が各施設を訪問して行いますが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、長野県支部において監査を実施しました。